

fidata HFAD10-UBX の導入(4)

—CD 再生(1)—

1. はじめに

前報(1)でおおよその動作確認が終了しましたので、CD 再生の音質を評価します。

2. fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりです。

HFAS1-S10←HFAD10-UBX (to Host B 端子)

HFAD10-UBX (to Device for Audio A 端子) →Brooklyn DAC+

試聴対象の CD は、演奏会で聴いてきた下記のものとしてします。

harmonia mundi ENCD 015

ベートーヴェン チェロソナタ集

グザビエ・フィリップス (チェロ)

フランシス・フレデリック・ギー (ピアノ)

harmonia mundi HMM 905296

ピアノと管楽器の 5 重奏曲 (モーツアルト・ベートーベン)

アンサンブル・ディアローギ

AVEX CLASSICS AVCL-25477

ヘンデルアリア集

森麻季 (ソプラノ)

アンサンブル・レ・ボレアード

LARO JARO 4310-2

ブルガリアヴォイス Angelina 他

Angelite

3. fidata HFAD10-UBX の試聴結果

ベートーヴェンのチェロソナタは、チェロの倍音や胴鳴り、ピアノの響きなど、ダイナミックな演奏の様相は演奏会の雰囲気を感じさせます。

ピアノと管楽器の 5 重奏曲はモーツアルトの方を聴きました。アンサンブル・ディアローギはフォルテピアノと、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ナチュラルホルンの木管群との構成の古楽アンサンブルです。フォルテピアノとナチュラルホルンは演奏会で聴いた印象の質感を出しており、アンサンブルの溶け合いやフォルテピアノの低音の沈み込みがリアルです。

森麻季のヘンデルのアリアは、透明度の高いソプラノとバックの古楽アンサンブルの質感がリアルで、リカルドの「涙の流れるままに」などは演奏会の歌唱そのものです。

ブルガリアヴォイスの **Angelina** という合唱団は、ブルガリアンポリフォニーと称する不協和音の合唱です。また、スコットランドのバグパイプのような持続音のパートもあります。浸透力のあるソロ、まるで協和しない 2 重唱、濁っているようでそうでない多重唱など、演奏会でのダイナミックな歌唱を想起させます。

いずれもこれまでの USB ハブを介する PC 用ドライブからの再生とはディテールの再現やダイナミックな表現で大きく差をつけています。

4. まとめ

HFAS1-S10 と HFAD10-UBX の組み合わせによる CD 再生は、これまでの HFAS1-S10 と PC 用ドライブと USB ハブの組み合わせによる CD 再生と一線を画すものでした。

以上